

朱鞠内湖イトウ釣りアンケート結果報告 (平成23年度)

坂本博幸・下田和孝・川村洋司・中野信之

かつて朱鞠内湖は、湖沼型のサクラマスが釣れることで注目され、盛期にはサクラマスを狙う釣り人で賑わいました。しかし近年サクラマス釣りは下火になり、換わってイトウ釣りが盛んになってきました。朱鞠内湖のイトウは、魅力的な釣りの対象魚であると同時に、道内に残された数少ない大規模な集団の一つです。この貴重なイトウを減らすことなく将来にわたって釣りを楽しむた

めには、イトウ資源の現状を把握し資源管理に生かすことが重要です。釣れるイトウの大きさや数は、湖内全体のイトウ資源の状態を反映すると考えられ、釣り人の皆様からの釣果報告はイトウ資源の現状把握にとって不可欠な情報です。また、釣り方や針の種類についてお答え頂くことで、イトウへのダメージの少ない釣り方をご提案できるものと考えています。

平成23年度アンケート用紙

Q1. 釣りをされた年月日と時間帯 平成23年 月 日 時 分 ~ 時 分

Q2. 釣り方 1.ルアー 2.フライ 3.トローリング 4.その他()

Q3. 針の種類 1.シングルフック 2.トリプルフック 3.その他()

Q4. 針の「かえし」の有無 1.有り 2.無し

Q5. 釣った魚の大きさ とリリース・持ち帰りの別

★ 大きさは目測でも構いません
★ イトウ以外の魚についても記入をお願いします



測定位置

記入例	大きさ	リリース	持ち帰り	大きさ	リリース	持ち帰り
イトウ	76 cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り
	_____ cm	リリース	持ち帰り	_____ cm	リリース	持ち帰り

ご協力ありがとうございました

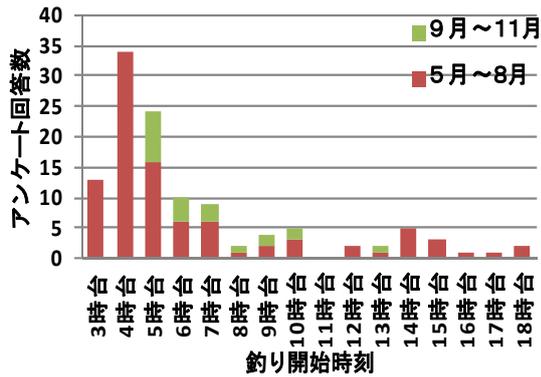
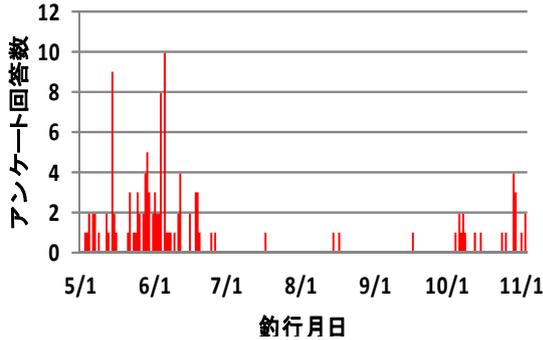
アンケートの集計結果を年度末にホームページに掲載しますのでご覧下さい
<http://www.fishexp.hro.or.jp/hatch/honjou> (北海道立総合研究機構 HP)
 印刷版の報告書をご希望の方は、下にお名前とご住所を記入ください

お名前 _____ 住所 〒 _____

アンケートの集計結果

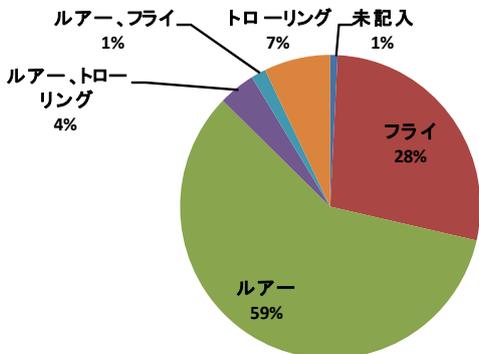
Q1. 釣りをされた月日と時間帯

平成23年は湖の解氷が例年並みとなり、イトウ釣りは5月上旬から開始され、5月中旬と6月上旬に釣り人が多く来ました。釣り開始時刻は日の出とともに行動することが多く、この時期の日の出にあわせて早朝4時台に釣りを開始しています。夏の釣りが若干数見られた後、秋の釣りは10月中旬から11月上旬まででした。この時期は5時~6時台から釣りを始めています。



Q2. 釣り方

今年もルアーを楽しまれた釣り人が多かったのですが、今年は59%と、昨年の67%より低くなりました。その一方でフライ、トローリングを楽しまれる釣り人が多くなってきました。

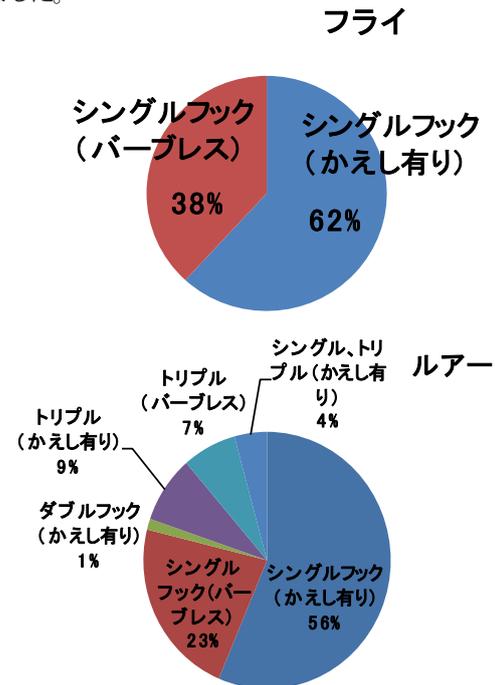


Q3. 針の種類とQ4. 針の「かえし」の有無

針の種類と「かえし」の有無については、フライトルアーに分けて集計しました。

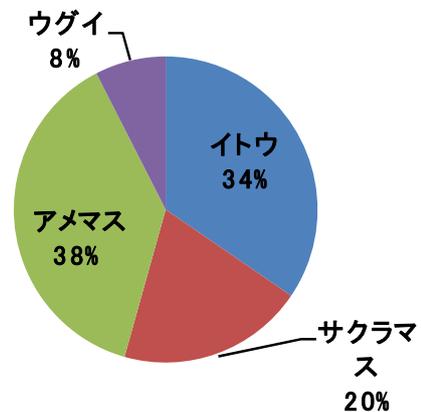
フライでは全ての釣り人がシングルフックを使用されていました。フックの「かえし」の有無に関しては、昨年同様かえし有りのフックが多く62%の釣り人が使用していました。

ルアーでも同様で、最も使用頻度の高い針は「シングルフックかえし有り」で全体の56%をしめました。次いでシングルフックのバーブレス→トリプルフックのかえし有り→トリプルフックのバーブレスの順で使用していました。



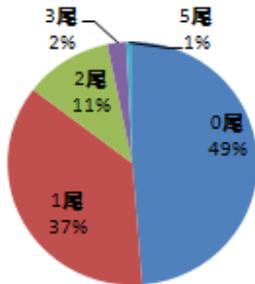
Q5-1. 釣れた魚種

釣り人の皆さんは主にイトウを狙って来ますが、釣れた魚で多かったのはアメマスで38%を占め、イトウは34%でした。そのほかにサクラマス、ウグイも釣れていました。



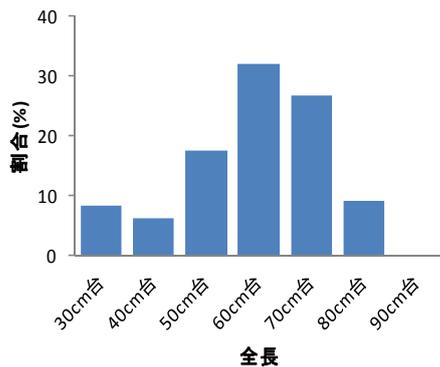
Q5-2. 釣ったイトウの尾数

1日あたりの釣果は、昨年より少ない回答でした。1尾と回答された方は37%、2尾以上は14%でした。約半数の方は0尾と回答されています。やはり、今年のイトウ釣りは特に難しかったようです。



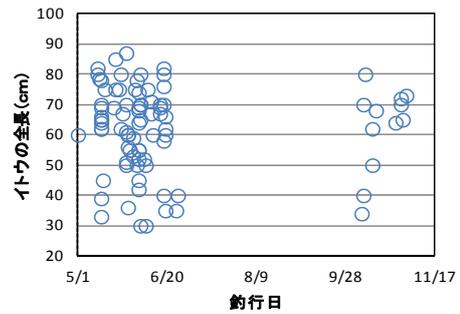
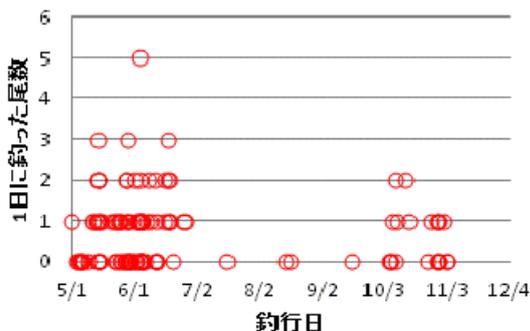
Q5-3. 釣ったイトウの大きさ

釣果報告のあったイトウは60cm台が最も多く、次いで70cm台→50cm台→80cm台の順に釣れていました。昨年と同様の傾向が示されましたが、今年は70cm台の割合が昨年より高かったことと30cm台のサイズも見られたことからリリースの効果があがってきたことと新たな釣り資源が加入してきた可能性が考えられました。



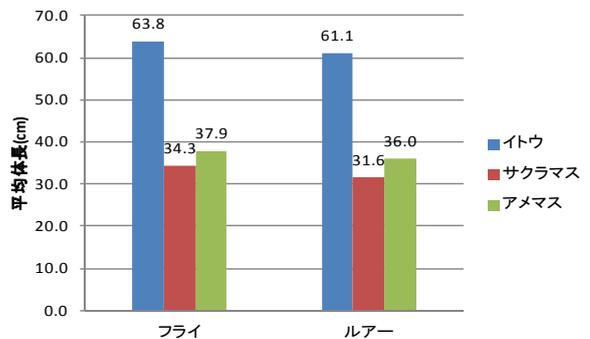
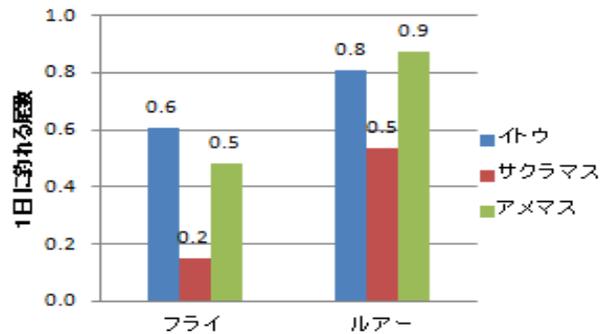
季節による釣果の違い

今年は例年通りの解禁となりました。イトウ釣りは5月上旬に始まり20cmから80cm台のサイズが釣れ、6月中旬まで続きました。釣れた人では1日に1尾から3尾で、中には5尾釣った人もいました。夏はほとんど釣れなくて、水温が下がってくる秋のシーズンは10月から釣られ30cmから80cm台でサイズに幅がありました。



釣り方による釣果の違い

フライとルアーのどちらが良く釣れるか、イトウ、サクラマス、アメマスの3魚種について検討しました。1人の釣り人が1日に釣る平均尾数でみると、イトウに関してはルアーの方が若干数多く釣れ、サクラマスとアメマスでは圧倒的にルアーで多く釣られています。一方、釣れた魚のサイズでは、全ての魚種でフライの方が大きな魚を釣っています。つまり平均的には、数ではルアー、サイズではフライが有利と言えます。この釣り方の違いは、昨年の結果と同様の傾向が見られました。



おわりに

今年のアンケートでは、延べ126名の方からご回答をいただきました。貴重な釣り時間を割いてご協力頂き誠にありがとうございます。アンケートは平成24年度も実施し、年による釣果の違いやイトウ資源の動向、針の種類による釣果の違いを明らかにし、より魅力的な釣り場づくりに向けた提案をしたいと考えています。今後もよろしくお願ひ申し上げます。

(内水面資源部 さかもとひろゆき)
 (さけます資源部 しもだかずたか・かわむらひろし)
 (朱鞠内湖淡水漁業協同組合 なかののぶゆき)